

大会名 第13回日本認知症ケア学会大会
会期 2012年5月19日(土)～20日(日)
場所 アクトシティ浜松 (静岡県浜松市中区板屋町111-1)
演題名 開設4年経過した通所リハの認知症予防の実際(第4報)
～前頭葉活性化を中心に～
発表者 大谷章仁(医療法人 聖志会 渡辺病院)
共同研究者 松本祥平、植田浩次、井畑宏敏、西 幸宏、宮島 千鳥
谷 正人、近藤佳子、村田智恵、

【はじめに】

当院の通所リハビリテーションにおいて、平成20年7月から利用者に対して前頭葉賦活化認知リハビリテーションを開始した。今回、開始後4年経過しており、利用者と非利用加者の認知機能の変化を集積・分析し報告したい。

【対象】

通所リハビリテーションには57名の軽度の認知障害・認知症の方が週1回ないし2回参加している。そのうち25～37ヶ月(平均32.1月間)以上継続している利用者8名(男性4名:女性4名)平均年齢79.1才(66～87歳)HDS-R平均 18.1 ± 4.6 を利用者群として、非利用者を対照群16～43ヶ月(平均28.8月間)以上外来継続している8名(男性2名:女性6名)平均年齢78.9才(66～85歳)HDS-R平均 17.5 ± 2.4 とした。

【方法】

1回あたり3時間30分の作業療法士による認知リハビリテーション(休憩時間を含む)を行った。内容:①指体操 ②ひらがな並び替え ③条件しりとり等利用者と非利用者のHDS-Rの点数変化を算出し、二標本t検定(ウェルチ検定)を行った。

【倫理的配慮】

利用者には研究の主旨と個人が特定されないよう配慮を行う旨を口頭に伝え承諾を得た。

【結果】

現在(平成23年12月1日)のHDS-Rの低下点数は、利用者群において 0.3 ± 5.4 点、非利用者群において 9.4 ± 3.8 であり両者の間には有意な差が見られた。 $(p=0.0014)$

【考察】

従来から金子らは、前頭葉活性化訓練で認知症の症状の進行抑制を認めたと報告していた。我々は、同様の方法を用い、4年前から前頭葉活性化訓練を主に実施してきた。今回少数であるが、利用者と非利用者の方に統計学的に有意な差が見られた。このことは、前頭葉活性化認知リハビリテーションが認知機能の維持に良い影響を示している可能性が示唆された。